はじめに　恋するノウフク

一目惚れはいつも横顔。
横顔は英語でプロフィール（profile）といいます。
この本はノウフクの横顔を知ってもらうための一冊です。

ノウフクというのは「農福連携」の通称で、文字通り、農業と福祉がお付き合いをする取組みです。今、障がい者をはじめとした多様な方々が全国の田畑で活躍しているのです。

ところが、ノウフクはそれだけでは終わりませんでした。

農業と福祉が掛け合わさったことによる魅力なのでしょうか。
ダイバーシティ&インクルージョンといった世界観のもと、今や多くの

企業や行政もノウフクに参画し、ますます農林水産業界隈がにぎわっています。国のほうも、農林水産省と厚生労働省の連携はもちろんのこと、法務省と文部科学省を加えた四省庁が手をとりあってノウフクに力を注いでいます。

そんなノウフクに一目惚れされた方も少なくありません。

私もそのうちのひとりです。私は農福連携特例子会社連絡会の代表として、主に企業参入型ノウフクの普及啓発に努めている他、農福連携技術支援者育成研修講師として、全国各地の都道府県で農業と福祉のあいだの架け橋となれる人材を毎年育成しています。

ノウフクはある意味、農業と福祉のお見合いです。

お互いに第一印象がよいこともあれば、最初は相手の魅力がわからなかったけれども、デートを重ねるうちに、その魅力に気づいていくようになることもあるでしょう。

ノウフクがなければ、障がい者と出会うことがなかった農家、逆に農家と出会うことがなかった障がい者も数多くいらっしゃいます。

もちろん、お互いの理解不足でうまくいかないお見合いもあるのですけれども、ノウフクで障がい者がもっと輝いた事例も少なくありません。

ところで、最近、「食料危機」という言葉を耳にしませんか。

かんたんに言えば、お店から食べ物がなくなるということです。

自分で食べるものは自分で作るという経験は、激動の時代に最も大切なことなのかもしれません。農業なんて経験したことがないという方も、ノウフクでしたら、やさしく農業をはじめられます。

なぜなら、ノウフクの現場は障がい者をはじめとした多様な方々が活躍できるようデザインされているからです。多様な方々が集まれば集まるほど、ノウフクはみんなで農業ができるという舞台になっていきます。

この本はまだノウフクをご存じでない農家や福祉関係者に向けて書きました。

障がい者を「お百姓」にする入門書になるように、さまざまな立場の視点から書いています。

この本が農家や福祉関係者だけでなく、ＪＡの職員、行政の農政課や福祉課の方々、企業の障がい者雇用の担当者、特別支援学校の先生にも届いてほしいと願っています。

本書の第一部ではノウフクとは何かを説明し、第二部ではレンケイのはじめ方をガイドしていきます。

この本で多くのひとにノウフクを知っていただき、農業と福祉に限らず、異なる業界における連携も後押しするような一冊となれば、幸いです。

もくじ

はじめに　恋するノウフク　4

第一部　ノウフクって何ですか？　11

第一章　一途なノウフク　16

なぜ、道具を見つめ直すのですか？　17
なぜ、畑にマークをつけるのですか？　28
なぜ、ノウフクが生きがいとなるのですか？　34
なぜ、ノウフクの現場に応援団が必要なのですか？　40
なぜ、スマート農業がノウフクにモテるのですか？　49

第二章　多様なノウフク　54

なぜ、農業と福祉がお付き合いをするのですか？　59
なぜ、農業と福祉のあいだに仲人が必要なのですか？　64
なぜ、たくさんの企業がノウフクに恋焦がれるのですか？　72
なぜ、ノウフクが長いお付き合いに繋がるのですか？　76
なぜ、四省庁が手をとり合っているのですか？　81

第三章　失恋するノウフク　86

なぜ、野菜が売れないのですか？　88
なぜ、農家が怒ってしまうのですか？　91
なぜ、福祉が去っていってしまうのですか？　97
なぜ、短いお付き合いになってしまうのですか？　103

第二部　どうレンケイしますか？　111

第四章　お見合いレンケイ　118

なぜ、農家がお試しノウフクをするのですか？　123
なぜ、福祉がお試しノウフクをするのですか？　130
なぜ、行政がお試しノウフクをするのですか？　136
なぜ、ＪＡがお試しノウフクをするのですか？　140
なぜ、企業がお試しノウフクをするのですか？　147

第五章　レンケイデート　154

なぜ、ノウフク地域協議会ができるのですか？　156
なぜ、ノウフクコンソーシアムができるのですか？　165

おわりに　愛するレンケイ　176

「ノウフクからのお題」へのヒント　182



第一部 ノウフクって何ですか？

たくさんのアートや才能とのコラボレーションが必要です。

『別日本で、いい。』松岡正剛

ノウフクという言葉は聞いたことがありますか。

農福連携の前半をカタカナで意匠したものです。

では、農福連携とノウフクはまったく一緒かというと、それも少しニュアンスが異なります。

それは、どこまでを農業とするのか、あるいは、どこまでを福祉とするのかといったことに関わってきます。

「農福連携」は、広くそれらの意味を捉えたいと思っているように見受けられます。そのほうが、より多様な方々がノウフクを使えるからでしょう。

一般的に農業においては、林業も水産業も農業に含め、それぞれ林福連携（リンプク）や水福連携（スイフク）と呼ばれる連携を行っています。

福祉においては、対象を障がい者だけでなく、高齢者やひきこもりの方、リワーク中の社員など、幅広く含めたいところです。

一方、「ノウフク」は農業と福祉をより広く捉えます。

農業においては、農林水産業に加え、加工や販売、飲食も、障がい者がその過程で関わっているのならば、ノウフクになります。他にも養蚕や花きといったものも、当然、ノウフクに含まれるわけです。特に養蚕などの伝統的な第一次産業を福祉が担う場合は、伝福連携と表現することもあります。

福祉の対象者については、生活困窮者や触法者、外国人も含めて、ノウフクと考えるべきだという風潮が強まってきました。触法者とは、刑期を終えて社会に復帰した方や保護観察になった方のことです。触法者の中には、障がいをお持ちの方も少なくありません。このような多様な方々が参画できる農園は、ユニバーサル農園と呼ばれています。

国もユニバーサル農園の支援を開始しており、多様な方々が社会に参加する機会になるのではと考えているように見受けられます。したがって、ユニバーサル農園の意味も多義的になっていきます。あるときは、予防やリハビリテーション、癒しの場としても機能し、またあるときは、学びや就労の機会の場になることもあるかもしれません。

たとえば、私は二〇二〇年の秋に横浜市の協力で、三渓園でお茶会をひらきました。いくつかの福祉事業所の利用者が足を運んでくださったのですが、その会で用いられた和菓子、茶碗、抹茶はすべて利用者の手によって作られたものです。女性陣の利用者は綺麗な和装姿で来てくださり、季節がこぼれ落ちたかのような和菓子も作ってきてくれました。男性陣も茶碗や花器を福祉事業所の窯で焼いてきてくれています。中には、隻腕で京の楽茶碗を思わせる一客を作った方もいます。抹茶は、京都のノウフクで栽培されたものをとり寄せました。

このような茶会を農福連携とするのは難しいですが、ノウフクには含まれるかもしれません。

たとえるなら、ノウフクは多様な方々と次々に握手をしていくような取組みなのです。障がい者が作った野菜を積極的に使って料理をしている飲食店もノウフク関係者と言えるのではないでしょうか。

参画者が多様なゆえに、ノウフクそのものの定義もゆるく多義的にしておくことが重要です。意味を少しずつ移ろわせながら、ノウフクは進んでいくのです。最近、農福連携等

と「等」が加えられることが多くなったのもこのような背景があります。林福連携や水福連携はもちろんのこと、伝統と福祉が連携した伝福連携なども含め、農福連携「等」として、ノウフクと表現されることが多くなりました。

究極的には、ノウの先には自然があり、フクの先にはひとがいるわけですから、ノウフクとは自然とひとがお見合いし、またひとつになっていく取組みとしても編集できるわけです。

第一章　一途なノウフク

多様な方々が活躍しているノウフク。
その現場もまた多様ですが、その方法は一途です。

畑で野菜や果物を育てる現場があるのはもちろんのこと、酪農や畜産でもノウフクは重宝されています。さらに山のなかに入って、林業をしていることもあれば、海岸で漁業をしているノウフクの現場もあるわけです。

では、なぜ障がい者がこのような多様な現場で活躍できるのでしょうか。

その理由は障がい者の才能が開花するよう、一途な工夫が現場でされているからです。やはり工夫がなければ、ノウフクは機能しません。障がい者が安心して安全に働けるこの

ような工夫を合理的配慮（ごうりてきはいりょ）といいます。

本章はまずノウフクにおける合理的配慮を見ていくことにします。道具や畑における合理的配慮からはじまり、障がい者が戦力となるために欠かせない支援者のあり方やスマート農業との親和性を伝えていきます。

一途なノウフクを味わってみてください。

なぜ、道具を見つめ直すのですか？

障がい者が自立して農業をするための手助けになるからです。

ハサミは切るための道具です。

何を当たり前のことを言っているのだと思うでしょうが、もしそのハサミの長さが、収穫すべきナスと同じ長さであったなら、障がい者はそのハサミをモノサシ代わりにして、収穫してよいナスかどうかを判断できるようになります（口絵参照）。

「ハサミより短いナスは収穫しないでくださいね」

と畑のルールができるわけです。そんなに都合よくハサミの長さと収穫すべきナスの長さが一致することなんてないでしょうと感じたかもしれません。しかし、ハサミの刃の部分に油性マジックで印をつけておけば、ナスの収穫専用ハサミができあがるかもしれません。そして、実際にノウフクの現場ではこのようなハサミが用いられています。

つまり、ハサミに「長さを測る」役割と「切る」役割の両方を持たせたわけです。このようにすることで、障がい者はいちいち収穫してよいかを周囲のひとに確認しなくても、自分で判断して、ナスの収穫ができるようになっていきます。

一方、ハサミの柄の色を濃い赤色にしたら、今度はミニトマトの収穫を判断するモノサシになるかもしれません。一般的にナスは大きさで収穫の判断をしますが、ミニトマトは色でその判断をするからです。

まだ青いミニトマトでしたら、特に色の見本はいらないかもしれませんが、すでに赤くなったミニトマトは、それを収穫してよいのかどうかの判断が難しくなります。同じ赤色

でもオレンジに近い赤から濃い赤色まであるわけです。その際に、「ハサミの柄より色の薄いミニトマトは収穫しないでくださいね」とこちらも障がい者に指示を出しやすくなってきます。先ほどと同じように、そんなに都合よくハサミの柄の色と収穫すべきミニトマトの色が一致することなんてないでしょうと思われましたか。しかし、ハサミの柄の部分に見本となる赤色のテープなどを巻きつけておくことによって、障がい者が自分の判断でミニトマトの収穫ができる可能性は高くなります。つまり、こちらの場合はハサミに「色を見極める」役割も持たせたわけです。

すでにある道具（ツール）にもうひとつ役割（ロール）を加える。このような工夫が、時として、現場の合理的配慮に繋がります。

何にしても道具置きつけかえる手は
恋しき人に別るると知れ

これは茶道の教えで、道具を置くときは、どのようなものでも、恋人と別れるような心地でいとしく思って置いてくださいといった意味になります。